

？ 2011.03.11 津波が 1F に到達したのは何時か ？

1F 津波到達と全交流電源喪失

(伊東良徳氏の見解「福島原発全交流電源喪失は津波が原因か」を参考に作成)

14:46	東北地方太平洋沖地震発生
14:49	気象庁 青森から千葉にかけての太平洋沿岸に大津波警報発令
15:18	岩手県大船渡 最大波 8.0m以上 [気象庁]
15:26	岩手県宮古 最大波 8.5m以上 [気象庁] 宮城県石巻市鮎川 最大波 8.6m以上 [気象庁]
15:27	1F に津波第 1 波到達 波高 4.0m [東電]
15:32 頃	IAEA 調査団報告書 "About 46 minutes after the earthquake, the first tsunami wave hit the site. It was followed by several additional tsunami waves leading to the inundation of the site."
15:34	海水系のトンネルの水位が上昇 津波 [東電]
15:35	1F に津波第 2 波到達 波高 7.5m 超、潮位計が損傷したため水位は不明 [東電] ----- 10m の防波堤を乗り越える津波
	 <p>固体廃棄物貯蔵庫東側のり面 (5 号機の近傍南側) から東側を撮影 = 東電提供 5 月 17 日公開の 6 枚の画像には撮影時刻の記載なし (1) 10m の防波堤を乗り越える場面がある (2) 津波が押し寄せる前の段階ではタンクの周りは津波で荒らされた跡が見えない (伊藤氏の推測) このことから第 2 波と考えられる そして、この 15:35 に到達したとされる第 2 波がタービン建屋や共用プール建屋内の非常用ディーゼル発電機等の設置場所まで到達したか。…… 撮影者は津波を連続撮影し、その中でタンクしか撮影していない、言い換えればタービン建屋や原子炉建屋の方を 1 枚も撮影していない。もしも津波がタービン建屋に達し、さらにはタービン建屋の壁に衝突していれば、撮影者がそちらを撮影しないはずがない。どう考えても、そちらの方がタンクより遥かに重要ですから。つまり、この撮影者が観察した津波は、海岸沿いのタンクを水没させたけれども、タービン建屋には達しなかったと考えるのが自然です。</p>
15:37	～ 全交流電源喪失 (D / G : 非常用ディーゼル発電機)
15:37	1 号機 喪失 (当直長引継日誌に時刻 15:37 記載)
15:41	2 号機 喪失 (D / G 2A 系停止 15:37、2B 系停止 15:40)
15:38	3 号機 喪失 (D / G 3A・3B 系停止 15:38)
15:38	4 号機 喪失 (当直長引継日誌に時刻 15:38 記載)
15:40	5 号機 喪失 (D / G 5A 系停止 15:39、5B 系停止 15:40)
15:40	6 号機 喪失 (D / G 6A 系停止 15:40、6H 系停止 15:40)
15:42	「全交流電源喪失」 原災法第 10 条第 1 項の規定に基づく通報

15:42



5月17日に公開された11枚の画像の内、撮影時刻「15:42」画像

15:42

15:43

15:43



15:43

15:44

15:44



15:44

15:46

15:57



撮影時刻「15:42」画像の津波は、画像右側の建物の両側から回り込んで、画像中段右側からと画像下側から流れ込む。この時点では、排気筒（鉄塔）の左側やタンクの周りはまだ濡れていない。これらの部分には、まだ一度も津波が来ていないことが見て取れる。

	<p>撮影場所は、海岸線沿いに北から 1・2・3・4 号機と並ぶ 1F の、4 号機の南側にある集中廃棄物処理施設 4 階から北側を向いて撮影したもの。写真の上奥に少しだけ見えている水色の部分は 4 号機の原子炉建屋の壁。写真の右上には、わずかに海が見える。(これは、連続写真の後の方の画像を見るともっとはっきりとわかる)</p> <p>この画像から、4 号機の原子炉建屋の南側の区域に初めて津波が到達したのは 15:42 ということがわかる。この画像で見えるまだ濡れていない場所は、4 号機の原子炉建屋のすぐ横であり、高さは原子炉・タービン建屋と同じ基準海面から 10m。(伊藤)</p>
15:45	<p>緊急災害対策本部発表 「オイルタンクが津波により流出」</p> <p>この流出したオイルタンクは、上記の 5 号機の前海岸沿いのタンクではなく、1 号機の前にあった重油タンク 2 つで、1 つは津波で流されて行方不明、1 つは 1 号機の原子炉建屋のあたりまで約 200m 押し流される。</p> <p>このことから、15:45 頃に、重油タンクを 200m くらい押し流す強い津波が押し寄せて、原子炉建屋周辺まで浸水したことがわかる。そして、この 15:45 というのは、4 号機南の廃棄物集中処理施設 4 階から撮影された画像の津波が押し寄せてくる時間帯 (15:42 から 15:44 頃) 引いていく時間帯 (15:44 頃から 15:46 頃) にあたる。(伊藤)</p>
15:51	<p>福島県相馬検潮所 最大波 9.3m 以上 [気象庁]</p>
	<p>3 月 20 日付福島民報</p> <p>東日本大震災で県内を襲った大津波(略)。津波は複数回にわたり、3 波は海岸線の高さ十数 m の松林を超えて陸地に押し寄せたという。</p> <p>11 日の大地震発生時、(福島第一原発の北側約 20km の南相馬市小高区) の T さんは海岸から 400m ほど離れた高台の自宅で津波が来ることを知り、(略)。1 波、2 波は近くの田で止まった。巨大な 3 波が見え、遠くで津波を見ていた人に「逃げて」と叫んだ。津波が自宅前を過ぎた時は住民の車も避難を指示していたパトカーも消えていたという。</p> <p>情報源：http://www.minpo.jp/pub/topics/jishin2011/2011/03/post_431.html</p>
16:52	<p>茨城県大洗町 最大波 (第 3 波) 4.2m</p> <p>15:15 第 1 波 1.8m、15:43 第 2 波 3.9m、16:52 第 3 波 4.2m [茨城大学 震災調査]</p>
	<p>東京電力は津波の第 3 波があったかなかったかについては一切触れていない。(伊藤)</p> <p>東京電力が非常用ディーゼル発電機の設置場所であるタービン建屋や共用プール建屋への津波到達時刻を明言しないこと、一連の証拠写真、地震当日の緊急災害対策本部の発表、少なくとも南相馬市と大洗町という福島第一原発の両側で第 2 波よりも大きな第 3 波が観測されているという事実から、15 時 35 分到達の第 2 波は、7.5m を超え、10m の防波堤を乗り越えたもののタービン建屋には達しないか触っても扉を押し開けるほどではなく、ましてや共用プール建屋にはまったく到達することはなく、その後より巨大な第 3 波が 15 時 42 分頃到達し、その第 3 波で初めてタービン建屋や原子炉建屋、共用プール建屋が浸水したと考えるのが、最も合理的だと私は思います。</p> <p>そうすると、非常用ディーゼル発電機は津波到達以前に停止していたもので、..... (伊藤)</p>

以上の記述は、伊東良徳氏のサイト内容を参考に作成

記述内の (伊藤)：伊東良徳氏の説明或いはその要旨

庶民の弁護士 伊東良徳氏のサイト <http://www.shomin-law.com/index.html>

> たぶん週 1 エッセイ > 福島原発全交流電源喪失は津波が原因か (2011 . 6.7 ~ 7.16 更新)

<http://www.shomin-law.com/essayFukushimaSBO.html>